

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600717	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	社会福祉法人 幸済会		
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの園		
所在地	(240-0041)		
	横浜市保土ヶ谷区東川島町14-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年12月24日	評価結果 市町村受理日	平成30年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 旅行や外出レク、お祭りなどの年間行事に力を入れています。また、近所に商店街があり、ご本人の希望に応じて日常の買物や散歩を行って社会性の維持、回復を援助しています。</p> <p>2. 地域との交流を大事にして、町内の定期清掃や行事への参加の他、小中学校との交流、下校見守りなども積極的に行っています。</p> <p>3. 医師である法人の理事長が、入居者様の主治医となり受診や往診を行うと共に、他の協力医療機関ともしっかり連携体制をとって、身体不調の早期発見と疾病への対応に努めております。ご本人・家族の希望を伺って、施設での看取りも多くなりました。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年1月16日	評価機関 評価決定日	平成30年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、相鉄線の西谷駅より住宅と商店が混在した地域を10分ほど歩いた場所にある。事業所の正面には、法人理事長が務める診療施設があり、隣には今年度開所した小規模多機能型居宅介護事業所がある。法人は、25年前に開設した特別養護老人ホームをはじめとして、3か所のグループホームや地域ケアプラザなどを開所し、地域の医療と介護を支えている。</p> <p>【地域と共にある事業所】 昨年この事業所は、かながわ高齢者福祉研究大会で「この町に根付く～地域の一員として私たちができることは何か～」をテーマに発表している。その中で、地域資源である町内会、保育園や小中学校、コンビニや商店街、そして診療施設や地域ケアプラザとの行事参加や日常の関わりの様子を紹介している。 また、事業所1階に平成27年8月より、一日3名の共用型デイサービスを開所している。地域の医療機関と連携した事例として、認知症発症により家にこもりがちであった男性が、共用型デイサービスの利用により笑顔が増えて活気が戻り、治療も受けられるようになったケースがある。これらを通じて地域と共にあることを実践している事業所である。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	かわしまの園
ユニット名	いちよう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と、サービスマナーに関する月間目標を掲げ、意識を高めている。	「温かい心、冷たい頭、優れた技能」という法人理念を基に、管理者が作成した「実践ポイント」を掲示し、新入職員に伝えている。また、法人は、サービスマナー強化月間を設けて目標を決め、3か月毎に、各事業所の職員を表彰し理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや運動会など行事参加や、保育園や小中学校との交流機会を、定期的に行っている。今年は小学校の周年行事への協力や下校の見守り活動も行っている。また3ヶ月に1度地域の清掃に参加している。	町内会の防災訓練、清掃活動、運動会などの行事に積極的に参加し協力している。また地域の保育園や小中学校との交流の機会があり、今年度は小学校教員20名が事業所を見学している。かながわ高齢者福祉研究大会に参加し「この町に根付く～地域の一員として私たちができることは何か～」というテーマで発表している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度、近所の地域ケアプラザにて、認知症とグループホームについての講座を行い、一般参加者の施設見学も受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し、活動状況を報告し委員の意見を伺って、サービスの改善に努めている。	運営推進会議は年6回開催し、利用者、家族、町内会長、民生委員、地域ケアプラザ職員が参加している。11月には、同日に夜間想定避難訓練も実施した。事業所の活動報告と地域の情報交換を行い、事業所の運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録を担当係長に持参報告。また、生活保護担当ケースワーカーと緊密に協力して、入居者の処遇に当たっている。	区役所に運営推進会議の会議録を提出し、市役所に事故報告書を郵送している。生活保護受給者が4名入所しているため、ケースワーカーに密に相談している。管理者は、グループホーム連絡会の幹事を務め、市役所職員との交流の場に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前はすぐ道路で交通量が多いため、安全の為玄関を施錠している。 その他に身体拘束は行っていない。 勉強会を通じて職員の意識も高めている。	身体拘束廃止についての勉強会を行い、「身体拘束をしないケア」を行っている。玄関は安全のために施錠をしているが、外出をしたい利用者には付き添って出かけている。車いすの利用者には、なるべく椅子に移乗してもらうよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の強い決意を持ち、虐待に付いての職員勉強会を実施している。 また、日々のケア現場でこまめに助言を行っている。 また、サービスマナー向上の取り組みを、継続的にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	区の職員と成年後見制度について意見交換する機会があり、施設の立場から話をした。現在、後見人制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時から話し合いを行い、書面及び口頭にて説明してご理解と同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族の集いを開催して、ご家族との意見交換、交流の機会を作っている。運営推進会議にご家族、入居者の代表に参加して頂き、伺った要望を反映している。また、面会カードの記入欄など、日常的に要望を出して貰える環境づくりに努めている。職員も、普段の面会時に気軽に意見をいただけるようコミュニケーションをはかる努力をしている。	家族会を年2回行っている。家族に敬老会やいちご狩りなどの行事への参加を呼び掛けている。家族会では、個別に相談する時間を設け、家族の希望により主治医との面談も行っている。リネンの交換、補聴器の扱い、掃除などについての意見に対して相談したことを記録し共有している。家族との連絡はユニットリーダーが行い、毎月の「おたより」では、各職員が利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や、月1回の職員ミーティングの機会がある。他、個別の面談や日常の会話を通じて、管理者が職員の意見を聞くように努めている。	現在、職員間の連絡事項は「申し送りノート」が中心となり、職員ミーティングを行う時間が取れない。管理者は、各職員の意見を個別に聞き、業務運営には支障はないが、職員からはミーティングの要望がある。	パート職員が多くなり、ミーティングの時間確保が難しい状況ですが、事業所全体の更なる介護力向上を目指すためにも、定期的なミーティングの開催を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から理事長に定期的に状況の報告を行う他、職員が直接理事長に面談して話している。それをもとに会社として職場環境の整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所から委員を出して研修委員会をつくり、年間の研修計画に基づいて法人内の勉強会を実施している。 また、選ばれた職員が随時、認知症実践者研修や他の外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年必ず、神奈川高齢者福祉研究大会に参加、発表している。 また、横浜市のグループホーム職員交換現場研修に参加し、自施設での新たな取り組みにつなげている。 管理者は、グループホーム連絡会を通じて、同業者との交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に数回ホームを見学して頂き、不安な点についてじっくりお話を伺い一つずつ対応していくことで、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ面談を行うと共に、入所後はご家族への状況報告をこまめに行って、一緒に考えながらケアを始めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況に応じて、面会の頻度や病院への受診について相談しながら援助にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのADLに応じて家事共同作業をお願いしている。洗濯、調理、配膳、食器洗い、自室の掃除、犬の世話など。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を報告し、ご家族に面会に来て頂いたり、電話で話して頂くようお願いしている。人によっては、散歩や食事介助も手伝っていただいている。 利用者様の誕生日に、ご家族を呼んで一緒に祝うよう勧めている。 また、年間の様々な行事には、ご家族の参加をお願いしている。 いただいたご家族の意見や指摘を大切にして、ケアに活かす様努めている。 1人の入居者は週に2回ご家族と一緒に施設で夕食を食べてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅当時から行きつけの歯科やマッサージを続けている他、馴染みのスーパーや美容院に連れて行っている。	利用者の半数は事業所の近くに住んでいたため、友人らが訪れることがあり、その際は居室に案内している。食事介助のために毎日訪れる家族もいる。事業所の2階では、小型犬を飼い、犬の好きな利用者が世話をしている。馴染みの美容室に職員が利用者を連れていくなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者様同士で一緒に行動してもらうように努め、目の不自由な方の手助けや、落ち着かない時にそばで寄り添うなど、助けていただいている。 席の配置も工夫している。日中はリビングで多く過ごし、皆でレクをするなどして、お互いの交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先へのお見舞いと相談支援に努めている。また、単身者で亡くなった方については、ホームでお別れ会を行い、法人の慰霊祭にて供養を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との会話を多くして、思いの把握に努めている。本人からの訴えや言動については、ケース記録や申し送りで情報を共有しているが、さらに「気づきノート」の活用も行っていきたい。	事業所1階で行っている共用型デイサービスの利用者が入所するケースもあり、入所前からの情報が得られるようになってきている。意向の把握が困難な場合は家族に相談している。同居していた我が子を心配する利用者の思いを汲み取り、面会の機会を設けるなどの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報を頂くと共に。ご本人やご家族との面談にてお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで各入居者様の状態を丁寧に報告し、現場職員と計画作成担当者が情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望と共に、ご家族にもケアへの要望を出して頂いている。 医療面では主治医の助言を受けて援助につなげている。 主治医や看護師、後見人などのアドバイスを随時受けて計画を見直している。	ケアプランの書式は事業所独自のものを使用し作成している。モニタリングは、担当職員が行い、ケアプランは通常半年で見直している。職員は、毎日ケアプランを確認しながら記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は、個人記録の他、申し送りや連絡ノートにて、丁寧に行うよう努めている。日々の活動の様子は、一覧表で分かりやすく工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な帰宅援助や、前の施設へ遊びに行くなどしている。その他、通院や外出、買物などご本人の希望には、出来るだけ対応するよう努めている。本人と一緒にお墓参りにも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が自身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容、美容、買物、外食を商店街の協力のもと実施している。近隣の地域ケアプラザの行事に参加している。（コーラス、作品展示）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長がかかりつけ医となり、ご家族にも納得を得ている。また、状況によっては、その他の専門医に受診するケースも多く、援助を行っている。	法人理事長が主治医となり医療体制が整えられていることを利用者と家族に説明し、理解を得ている。主治医の紹介により専門医の受診が必要な利用者には職員が同行し、医療情報を共有している。主治医は月1回、看護師は週1回来訪している。訪問歯科医、訪問マッサージ師も来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体状況の報告を毎日かかりつけ医と看護師にFAXしており、緊密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からソーシャルワーカーと相談、調整を図っている。主治医による病状説明の際は、必ず管理者も同席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に必ずご家族と話し合い、重度化した場合の対応について書面にて説明し、ご理解をいただいている。その後も、家族の集いで意見交換するなど、随時話し合いを行っている。また、個別の利用者の状況に応じて、将来的な要望も伺って対応している。昨年度は2人の看取りを行った	入所時に、「緊急時の対応方法確認書」「終末期に関する意思確認書」を交わし、主治医が終末期と判断した時に、「看取り介護実施に関する医師の意見書」を交わしている。法人でターミナル研修を行っているが、今年度は参加できていない。毎日、主治医には「特記報告書」を送付し利用者の変化を伝えている。主治医が町内に在住しているので、職員は安心して業務に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に、年二回普通救命講習を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、消防署や地域の方々にも参加して頂いている。また、今年度は地震を想定した訓練も2回行った。管理者と職員が、年1回地域の防災訓練にも参加している。今年から、毎月防火活動日を設定して、ミーティングや清掃、訓練を行うことにしている。	防災訓練は、地震2回、火災2回の年4回実施している。また、今年度からは「帷子川」の洪水対策の指導を受けている。町内会の防災訓練にも参加し、起震車による地震体験も行っている。飲料水などの備蓄品は、持ち出しやすいように玄関のカウンターの下に置き、備蓄品リストを作成し管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護の勉強会を実施している他、日々の業務中に管理者や先輩職員が注意、指導を行っている。 法人内でサービスマナー研修を行い、言葉使いに細心の注意を払うよう心掛けている。	法人として、3か月毎にサービスマナー強化月間を設けて、利用者に対する職員の挨拶、表情、態度、言葉遣い、身嗜みをきめ細かく指導している。また、個人情報保護の研修も行い、情報漏れなどないよう書類は書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを図りながら、希望を聞きだすように努めている。 食べたいメニューや、おしゃれ、余暇活動についても希望を聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせて、食事の時間や日中の過ごし方を考えている。 また、本人の希望を伺って外出も行っている。 本人と相談して日課表を作っている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを選んでいただき、行ける方は一緒に洋服の買物をしている。また、希望に応じて美容院へ同行している。 希望者にはネイルや髪飾りをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、簡単な調理や配膳、洗い物などをお願いしている。 毎月お楽しみ食の日をつくり、行事食や出前食も取り入れている。 食事前には一緒に嚥下体操をして声を出している。 利用者の要望を伺って麺類のメニューを増やしたり、漬物の用意をしている。	レシピ付きの食材が業者から配達され、職員が調理している。訪問時、利用者も厨房に入り手伝いをしていた。職員は、利用者の介助をしながら一緒に食事をしている。毎日、食事介助に来ている家族も一緒である。寿司や牛丼の出前のほか、ファミリーレストランや回転寿司などに出かけ、食事を楽しむ工夫をしている。利用者の誕生日には、バースデーケーキを提供し、家族を招いて一緒に祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事形態を変え、介助も行っている。水分は好みに応じてジュースや牛乳も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の人以外は、朝夕に口腔ケアを行っている。 また、夜間に入れ歯の管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は定時の声掛けに加え、希望時にトイレ誘導し対応している。 夜間は個々人のリズムに合わせて、トイレの声掛けを実施している。	各ユニットに3か所のトイレがあり、1か所は職員専用となっている。排泄が自立している利用者は半数ほどいるが、日中オムツの利用者も2名おり、排泄パターンを把握してトイレ介助を行っている。 ストーマ装着の利用者が1名入所しており対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くすすめ、牛乳やヨーグルトを提供している。 便秘時には、下剤の使用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めず、日中にご本人の希望を聞きながら対応している。 夜間は行っていない。 毎日の要望がある方には、出来るだけ努力して対応している	1階は共用型デイサービスに、1日3名の利用者を受け入れており、毎日入浴できるようにしている。同性介助を希望する利用者に対応している。浴室にエアコンを設置してヒートショック対策を行っている。入浴剤や季節のゆず湯、しょうぶ湯で入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせて入床、起床時間をずらし、寝付けないときはお話を聞いて対応している。 日中の昼寝やソファでの休息もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、ユニットリーダーを中心に内服薬についての理解を深め、申し送りやノートを通じて他職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた家事のお手伝いや、嚙下体操の司会などをお願いしている。 また、歌レクやカラオケ、外出の支援をしている。 希望に応じて、好きなおやつやおかずを買っていただいている。 毎食後にタバコを吸っていただく方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事として、月1回程度の日帰り外出レクや、一泊旅行を行っている。 歩ける方は、週2回の買い物や散歩を行っている。 外出が難しい方には駐車場で外の気浴にお誘いしている。	事業所の周囲には、商店があり、利用者と一緒に買い物や散歩を行っている。また、法人主催の行事として春と夏の1泊旅行、夏まつり、秋の運動会、餅つき大会、3月のいちご狩りなどがある。他事業所との合同のレクリエーションに参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族協力の元、現金は紛失してもいい金額を所持して頂いている。また、必要時に授受を交わし、希望の金額をお渡ししている。 定期的と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を聞きながら、定期的にご家族に電話したり、暑中見舞いや年賀状を書くなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心がけ、リビングではテレビや音楽をかけて、過ごしていただいている。 季節にちなんだ飾り付けや、利用者様の作品展示も行っている	2階ユニット入口には、職員の顔写真と紹介が掲示してある。リビングには、食事用テーブルとソファが置かれ、利用者はゆったりと過ごすことができる。2階で小型犬を飼っており、利用者が世話をしている。各ユニットは中庭を囲んで回廊があり、その周囲は居室となっている。回廊は、歩行訓練にも活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置、テーブルの配置に工夫している。 利用者の状況を考慮し、その都度席替えも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んで頂き、ご家族の写真なども飾っている。	居室に設置されているものは、クローゼットのみであるが、エアコン、カーテン、ベッドなどは以前の利用者が残した物を使用している方も多し。それぞれの居室には家族の写真、テレビ、仏壇、タンスなどが置かれ、個性的で居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな設計の空間である。また、各居室に名前を貼って本人が覚えやすくしている。		

事業所名	かわしまの園
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と、サービスマナーに関する月間目標を掲げ、職員の意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや運動会など行事参加や、保育園や小中学校との交流機会を、定期的に行っている。今年は小学校の周年行事への協力や下校の見守り活動も行っている また3ヶ月に1度地域の清掃に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回、地域ケアプラザの依頼で、新人ケアマネージャー向けに施設見学説明会を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し、活動状況を報告し委員の意見を伺って、サービスの改善に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録を担当係長に持参報告。また、生活保護担当ケースワーカーと緊密に協力して、入居者の処遇に当たっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前はすぐ道路で交通量が多いため、安全の為玄関を施錠している。 その他に身体拘束は行っていない。 勉強会を通じて職員の意識も高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の強い決意を持ち、虐待に付いての職員勉強会を実施している。 また、日々のケア現場でこまめに助言を行っている。 また、サービスマナー向上の取り組みを、継続的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の入居者様が、後見人制度を活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時から話し合いを行い、書面及び口頭にて説明してご理解と同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族の集いを開催して、ご家族との意見交換、交流の機会を作っている。運営推進会議にご家族、入居者の代表に参加して頂き。伺った要望を反映している。また、面会カードの記入欄など、日常的に要望を出して貰える環境づくりに努めている。職員も、普段の面会時に気軽に意見をいただけるようコミュニケーションをはかる努力をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や、月1回の職員ミーティングの機会がある 他、個別の面談や日常の会話を通じて、管理者が職員の意見を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から理事長に定期的に状況の報告を行う他、職員が直接理事長に面談して話している。 それをもとに会社として職場環境の整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所から委員を出して研修委員会をつくり。年間の研修計画に基づいて法人内の勉強会を実施している。 また、選ばれた職員が随時、認知症実践者研修や他の外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年必ず、神奈川高齢者福祉研究大会に参加、発表している。 また、横浜市のグループホーム職員交換現場研修に参加し、自施設での新たな取り組みにつなげている。 管理者は、グループホーム連絡会を通じて、同業者との交流を図っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に数回ホームを見学して頂き、不安な点についてじっくりお話を伺い一つずつ対応していくことで、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ面談を行うと共に、入所後はご家族への状況報告をこまめに行って、一緒に考えながらケアを始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況に応じて、面会の頻度や病院への受診について相談しながら援助にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのADLに応じて家事共同作業をお願いしている。洗濯、調理、配膳、食器洗い、自室の掃除、犬の世話など。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を報告し、ご家族に面会に来て頂いたり、電話で話して頂くようお願いしている。 利用者様の誕生日に、ご家族を呼んで一緒に祝うよう勧めている。 また、年間の様々な行事には、ご家族の参加をお願いしている いただいたご家族の意見や指摘を大切にして、ケアに活かす様努めている。 ある入居者のご家族がほぼ毎日訪問され、朝食と昼食を職員と一緒に介助して下さっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅当時から行きつけの歯科やマッサージを続けている 他、馴染みのスーパーや美容院に連れて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者様同士で一緒に行動してもらおうように努め、目の不自由な方の手助けや、落ち着かない時にそばで寄り添うなど、助けていただいている。 席の配置も工夫している。日中はリビングで多く過ごし、皆でレクをするなどして、お互いの交流を促している。今年から共用型デイサービスを始め、その利用者様も含めて交流をはかっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先へのお見舞いと相談支援に努めている。また、単身者で亡くなった方については、ホームでお別れ会を行い、法人の慰霊祭にて供養を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との会話を多くして、思いの把握に努めている。本人からの訴えや言動については、ケース記録や申し送りで情報を共有しているが、さらに「気づきノート」の活用も行っていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報を頂くと共に。ご本人やご家族との面談にてお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで各入居者様の状態を丁寧に報告し、現場職員と計画作成担当者が情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望と共に、ご家族にもケアへの要望を出して頂いている。 医療面では主治医の助言を受けて援助につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は、個人記録の他、申し送りや連絡ノートにて、丁寧に行うよう努めている。日々の活動の様子は、一覧表で分かりやすく工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な帰宅援助や、前の施設へ遊びに行くなどしている。その他、通院や外出、買物などご本人の希望には、出来るだけ対応するよう努めている。本人と一緒に墓参りにも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容、美容、買物、外食を商店街の協力のもと実施している。近隣の地域ケアプラザの行事に参加している。(コース、作品展示)園芸のボランティアさんや、レクお話のボランティアさんも来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長がかかりつけ医となり、ご家族にも納得を得ている。また、状況によってその他の専門医に受診するケースも多く、援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体状況の報告を毎日かかりつけ医と看護師にメールしており、緊密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からソーシャルワーカーと相談、調整を図っている。主治医による病状説明の際は、必ず管理者も同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に必ずご家族と話し合い、重度化した場合の対応について書面にて説明し、ご理解をいただいている。その後も、家族の集いで意見交換するなど、随時話し合いを行っている。 ターミナルケアは昨年度1人を実践した。今後も1名の方についてご家族の要望を受けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に、年二回普通救命講習を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、消防署や地域の方々にも参加して頂いている。 また、今年度は地震を想定した訓練も2回行った。 管理者と職員が、年1回地域の防災訓練にも参加している。 今年から、毎月防火活動日を設定して、ミーティングや清掃、訓練を行うことにしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護の勉強会を実施している他、日々の業務中に管理者や先輩職員が注意、指導を行っている。 法人内でサービスマナー研修を行い、言葉使いに細心の注意を払うよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを図りながら、希望を聞きだすように努めている。 食べたいメニューや、おしゃれ、余暇活動についても希望を聞いて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせて、食事の時間や日中の過ごし方を考えている。 また、本人の希望を伺って外出も行っている。買い物や自販機への散歩など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを選んでいただき、行ける方は一緒に洋服の買物をしている。また、希望に応じて美容院へ同行している。 希望者にはネイルや髪飾りをして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、簡単な調理や配膳、洗い物などをお願いしている。 毎月お楽しみ食の日をつくり、行事食や出前食も取り入れている。 食事前には一緒に嚥下体操をして声を出している。 利用者の要望を伺って麺類のメニューを増やしたり、漬物の用意をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事形態を変え、介助も行っている。水分は好みに応じてジュースや牛乳も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の人以外は、朝夕に口腔ケアを行っている。また、夜間に入れ歯の管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は定時の声掛けに加え、希望時にトイレ誘導し対応している。夜間は個々人のリズムに合わせて、トイレの声掛けを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くすすめ、牛乳やヨーグルトを提供している。便秘時には、下剤の使用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めず、日中にご本人の希望を聞きながら対応している。夜間は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせて入床、起床時間をずらし、寝付けないときはお話を聞いて対応している。 日中の昼寝やソファでの休息もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、ユニットリーダーを中心に内服薬についての理解を深め、申し送りやノートを通じて他職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた家事のお手伝いや、嚙下体操の司会などをお願いしている。 また、歌レクやカラオケ、外出の支援をしている。 希望に応じて、好きなおやつやおかずを買っていただいている。 夕食時にビールを一杯飲んでいただく方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事として、月1回程度の日帰り外出レクや、一泊旅行を行っている。 歩ける方は、週2回の買い物や散歩を行っている。 外出が難しい方には駐車場の外気浴にお誘いしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族協力の元、現金は紛失してもいい金額を所持して頂いている。また、必要時に授受を交わし、希望の金額をお渡ししている。一緒に自販機や買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を聞きながら、定期的にご家族に電話したり、暑中見舞いや年賀状を書くなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心がけ、リビングではテレビや音楽をかけて、過ごしていただいている。季節にちなんだ飾り付けや、利用者様の作品展示も行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置、テーブルの配置に工夫している。利用者の状況を考慮し、その都度席替えも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んで頂き、ご家族の写真なども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな設計の空間である。また、各居室に名前を貼って本人が覚えやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 かわしまの園

作成日 平成30年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	非常勤を含むユニットの全員で話し合い、運営や業務の意見交換をする機会がない	常勤、非常勤職員を含めてなるべく多くの職員が参加するユニットミーティングを定期的に行う	各ユニット毎に2ヶ月に1回ミーティングを行い、意見交換する	6ヶ月
2	10	本人や家族の意見要望を書面に残して、介護計画に生かされている様子がわからない	本人家族と定期的に面談し、意見要望を書面に残す	年2回（5月と11月）の「家族の集い」の際に、個別に面談し、カンファレンスを行って要望を伺う。	6ヶ月
3	10	現状に即した介護計画の見直しが不十分である	定期的に現場職員によるアセスメントとモニタリングを行い、介護計画書に生かしていく	3ヶ月に1回のモニタリングと6ヶ月に1回のアセスメント、カンファレンスを基本サイクルとしていく	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。